

「肺がんALK《FISH法》」 染色体検査報告書改訂のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、下記項目につきましては、染色体検査報告書を別掲の通り改訂させていただきますので、取り急ぎご案内いたします。

宜しくご了承賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

対象項目

- [45089] 肺がんALK《FISH法》

改訂内容

- 裏面をご参照ください。

変更期日

- 令和2年12月1日(火)ご報告分より



肺がんALK《FISH法》

肺がんALK《FISH法》につきましては、12月1日(火)ご報告分より染色体検査報告書の記載事項に下記赤枠2点の内容を追記いたします。

【改訂後の報告書見本(該当箇所を抜粋)】

FISH法による肺癌ALK(2p23逆位/転座)解析

【検査結果】

2p23(ALK)領域を介した転座陽性細胞が認められました。

【検査所見】

Vysis ALK Break Apart FISH プロブキットによるスプリットシグナルの検出状況

結果分類	計数結果		ALK シグナル様式
	検出率	細胞数(検出率)	
陰性細胞	4.0 %	1 (2.0 %)	①黄 \geq 1/赤0/緑0
		1 (2.0 %)	②黄 \geq 1/赤0/緑 \geq 1
陽性細胞	96.0 %	45 (90.0 %)	③黄 \geq 0/赤 \geq 1/緑 \geq 1
		3 (6.0 %)	④黄 \geq 1/赤 \geq 1/緑0

① ※陽性細胞の検出率が15~100 %の場合、陽性と判定する

※用手法にてスコアリング

※使用プローブ: Abbott社製 Vysis ALK Break Apart FISH プロブキット (Cat.No. 6N38-021)

②

写真: 患者検体(ホルマリン固定パラフィン包埋切片) 間期核



基本的なシグナル検出様式

①
3' /5' ALK

②
3' /5' ALK

陰性
(Negative)

① 陽性と陰性の結果を判断するために使用するスコアリングシステムを記載します。
使用プローブ名称、プローブメーカー名およびカタログNo.を記載します。

② 検体の固定法および処理法を記載します。

※検査方法等、その他内容に変更はございません。